属人区長の書簡 (2013年4月)

属人区長はフランシスコ教皇 選出に可はに感謝である。 はて神に感謝である。 とのでは、 をでするでは、 をでするでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでは、 なのでいます。

2013/04/06

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

教皇選出という教会生活における非 常に重要な出来事に立ち会ったの は、つい先日のことのようです。こ のような出来事にはいつも聖霊の働 きが実感されるのですが、ベネディ クト十六世が就任ミサでお話しに なったように、今回も例外ではあり ませんでした。「教会は生きていま す。それが、この数日間にわたした ちが味わった素晴らしい経験です (・・・)。教会は若い命にあふれていま す。教会はその中に世界の未来を もっています。だから教会は、わた したち一人ひとりに未来に至る道を 示してくれるのです。教会は生きて おり、わたしたちはそのことを目の 当たりにしています。わたしたち は、復活した主が弟子たちに約束し た喜びを経験しているからです。| [i]

フランシスコ教皇は、こう自問自答しておられます。「ヨセフはてのはてなるの保護者としてのうるとがのように果たすのではのないに自分のはでは、神の計画に進んで従うごが望いた。とでした。(・・・)神が望て、はいたことでした。(・・・)神が望ている。人間が建てた家ではないです。神ご自分のことばへの忠実です。神ご自

身が家を建てます。ただし、ご自身 の霊によってしるしづけた、生きた 石をもって。ヨセフが『守護者』な のは、彼が神のことばを聞くことが でき、神のみ心に導かれるからで す。だからこそ彼は自分にゆだねら れた人々をますます気遣います。そ して、出来事の意味を現実的に読み 取り、周りの状況に気を配り、賢明 な決断を行うことができたので す。| [ii]。教皇選出の前に思い起こ させ、選出後に確信させたように、 一創立者を全面的に見習い一紹自然 的人間的な愛情のこもった祈りと犠 **牲を十二分に捧げながら、新教皇を** 愛し、常に重要なその司牧活動の第 一歩を支えようと努めています。

昨日、復活節が始まりました。世界のあらゆるところから立ち上る喜び溢れる讃歌アレルヤは、主に対する教会のゆるぎない信仰を表しています。日曜日ごとにクレドの一節で宣言するように、イエスは十字架上の

屈辱的な死の後で、父なる神から聖霊を通して、新しいいのち、すなわち栄光に輝く至聖なるいのちを受け取られました。perféctus homo 完全な人であるそのイエスは、ポンティオ・ピラトのもとで死に、葬られ、

「聖書にあるとおり三日目に復活し た」[iii] のです。それは、再び死ぬ ことのないためであり、私たちが期 待しているように、将来には私たち も復活し、永遠のいのちに入ること を保証するためです。教会と共に祈 りましょう。「聖なる父よ、いつで もまた特にこの時、あなたをたたえ 祝うことは、真に尊い大切な務めで す。わたしたちの過越しキリスト は、世の罪を取り除かれた、真のい けにえの小羊、ご自分の死をもって わたしたちの死を打ち砕き、復活を もってわたしたちにいのちをお与え になりました。| [iv]

聖霊の助けのもとに、信仰のこの偉 大な神秘を探究するようにしましょ

う。これは、建物の礎のように、キ リスト教的生活を全面的に支える事 柄です。カトリック教会のカテキズ ムが教えています。「キリストの復 活の神秘は実際の出来事で、新約聖 書に記されているように、歴史的に 確認された示現を伴いました。| [v] それを聖パウロはコリントの信者に こう説明しています。「わたしがあ なたがたに伝えたのは、わたしも受 けたものです。すなわち、キリスト が、聖書に書いてあるとおりわたし たちの罪のために死んだこと、葬ら れたこと、また、聖書に書いてある とおり三日目に復活したこと、ケ ファに現れ、その後12人に現れたこ とです。」[vi]

人間キリストの復活は本質的に異質なもので、聖霊の力で霊魂と身体が再び合体し、父なる神の栄光に完全に入り込みました。これは実際に起こったことであり、信頼できる証人たちが証言している出来事です。し

かし、それと同時に、何よりもキリスト教信仰の根本となるもので、死主は、「復活した体をもって、死死と問題えた別のいてのいちでは、聖霊の力に満たのカスでは、聖霊の力に満たのからだは、聖霊の力に満たのからがは、聖霊の状態で神のいちです。でするのです。でするのです。でするのです。ではキリストを天に属するとができました(1コリントを表した(1コリントを表した(1コリントを表した)。」[vii]

聖ホセマリアがある説教で述べていることを黙想しましょう。「生きておられるキリスト。イエスは私たちと共にいてくださる神、エンマヌエルなのです。神は御自分の民をお見捨てにならないことが、キリストの復活によって明らかになりました。(・・・)

〈キリストは教会の中に生きておられる。
る。
が表るのはあなたたちにとっ

てよいことである。私が去らないなら、あなたたちには守護するものが来ないからである。しかし去ればそれを送ろう。』(ヨハネ16,7)全ての御計画通りでした。十字架上のの御計ることによって、イエスはしを送けることによって下さるのです。教会の全活動を通じて、教会と共にいてさるのです。

特に、毎日御自分をお与えになる御 聖体の秘跡において、キリストは私 達と共におられます。だからこそ、 ミサ聖祭はキリスト信者の生活の中 心であり拠り所なのです。全てのミ サ聖祭に、キリストの頭と体、つま り全キリストが現存されます。『キ リストによって、キリストと共に、 キリストのうちに。』キリストは道 であり、仲介者です。キリストには 全てが見出されます。キリストと一 緒でなければ、私達の生活は空しく なることでしょう。イエス・キリスト においてこそ、御教えに従って、 『われらの父よ』と敢えて祈ること ができ、天と地の主(ぬし)を恐れず に父と呼ぶことができるのです。

聖なるホスティアに現存されるイエスは、この世におけるイエスの現存の保証・根拠・完成にほかならないのです。」[viii]

復活されたキリストは、この世の 主、歴史の主人でもあられます。神 の救いのご計画の中で、主がお望み になりお許しにならない限り何事も 起こりません。聖ヨハネが黙示録で 主の栄光をあますことなく示してい ます。「燭台の中央には、人の子の ような方がおり、足まで届く衣を着 て、胸には金の帯を締めておられ た。その頭、その髪の毛は、白い羊 毛に似て、雪のように白く、目はま るで燃え盛る炎、足は炉で精錬され たしんちゅうのように輝き、声は大 水のとどろきのようであった。右の

手に七つの星を持ち、口からは鋭い 両刃の剣が出て顔は強く照り輝く太 陽のようであった。| [ix]

この世と歴史をあまねく支配してお られる主の弟子として私たちは、全 力を傾けてこの世で神の国を築くよ う励まなければなりません。それに は、全身全霊を尽くして神を愛する だけではなく、愛情の伴った効果的 な愛徳をもって、人々を一人ひと り、特に助けを必要としている人を 「行いをもって誠実に」[x]、愛する ことです。ですから、聖ホセマリア が述べたように「人間の作り出す個 人的・社会的不正を前にして、もと もとキリスト的な心を持っている人 (テルトゥリアヌス『護教論』17参 照)の感じる、がまんできないもどか しさや苦悩、焦燥感しがよく分かり ます。「何世紀にもわたる人類の共 存生活にもかかわらず、目をもって いるのに見えない人、心があっても 愛さない人々は、まだまだ憎悪や破

壊、狂気の沙汰をやめようとしない 状態です。」[xi]

周知のようにこのことは、新教皇が 就任当初から表明された懸案の一つ です。創立者の模範と教えに従い、 一人ひとりがキリストの愛徳をもっ て職場に赴き、人々に霊的物的な心 遣いを示すよう努めましょう。それ を個人的に実行しますが、困ってい る人たちを気遣っている他の人たち に協力を求め、促すことも必要で す。オプス・デイは、神のみ旨に よって、マドリードのスラム街の貧 しい人たちや病気の人たちの間で生 まれ、強固なものにされたことを決 して忘れてはなりません。創立者 は、オプス・デイの草創期に、惜し みない心で英雄的に彼らの世話をす るために多くの時間を使いました。 1941年、こうしたためています。

「あなたたちが実行していることですから、思い出してもらう必要もないことですが、オプス・デイはマド

リードの病院や最も貧しい地区で、貧しい人たちの間で誕生しました。私たちは今でも貧しい人や子どもたち、病人を気遣っています。これは、決して中断されてはならないオプス・デイの伝統です。」[xii]

幾年か後、聖ホセマリアはこの教え をより明白な表現で補いました。そ の後、幾多の歳月が流れましたが、 それは色あせることなく、現実味を おびています。「この混乱している 時勢には、政治や社会生活の中で、 右派か左派か中道かを識別すること はできません。しかし、もし、貧し い人たちに福祉がもたらされ、全て の人に最低限の生活が保証され、働 き、病気になったら適切な看病を受 け、時には気晴らしもし、子どもた ちを教育し、年老いたら世話をして もらう権利を満喫することができる のが左派であるというなら、私は誰 よりも左派に属します。もちろん、 教会の社会教説に従ってのことで

あって、無神論に裏付けられた共産主義とか物質主義などとはいかなる関わりもありません。また、反キリスト教的な階級闘争とも関係はありません。彼らの持論に妥協することはできないのです。」[xiii]

時々、キリスト信者の間でも困窮者 に対する愛徳に欠けた行為があるこ とに創立者が特に心を痛めていまし た。「この世の富は少数の人々の間 で分配され、文化財も一部の人が 握っています。そしてそれ以外のと ころには、食べ物と知識への飢えが あるばかりです。人間の生活は神か ら出たもので、聖なるはずですが、 実際には、統計表の項目とかその数 字としてしか扱われていないので す。このように現状を眺めると、先 に述べたもどかしさが解り、それに 共感を覚えます。すると、これが動 機となって『新しい愛の掟』を実行 するよう絶えず私たちに誘いかけて

おられるキリストの方に視線を向けるようになるのです。

日常生活のいろいろなできごとから、神の意向を悟ることができますが、同時に人々を愛し人々のために献身しなければならないことも理解できます。」[xiv]

子どもたちよ、この言葉を黙想し、 多くの人々の耳に響かせましょう。 それは、「新しい愛の掟」が全ての 人々の生活に輝き出て、イエスがお 望みになったように、主の弟子であ ることが区別されるようになるため です[xv]。イエスの復活後、gavísi sunt discipuli viso Dómino[xvi], 弟 子たちは、主を見て喜んだ、という 福音書の言葉を掘り下げて考えたい と思います。また、師なる主はいつ も私たちの傍らに付き添っておられ ることも考えましょう。そして、特 殊な状況にある時も普段の日常生活 の中でも、主を捜し求め、主を見つ

めましょう。もし普段の生活の中ででまれば、決マリンはないと、聖ホセとはないと、聖ホセしまが述っていたことを確信しまれが述ったことを確信した後で、また主が私たちに信頼していることを確信した後で、あらないがないとを確信したの歩みは、あらためで、あらたがであられば、あらればないが深まったでは、ありないが深まったがいるものになったでは、ありないが深まったがいるものになったがいます。

今月は、復活節とこの世における新 しいペトロの後継者を迎えた教会 喜びに加えて、私たちには他にないない。 を新たにする祝日があります。 で、23日は聖ホセマリアの初ら主 に、23日は聖ホセマリアの初ら主 で、創立者の仲介を通して、会して は、フランシスコ教皇と聖なるして して全人類に、聖霊のようし、そがい する絶好の機会です。私はオプス・ デイの歴史を思い巡らし、「神の御慈しみの歴史」を満喫していることを隠しはしません。皆さんも同じようであるようにと至聖三位一体に願っています。私たちは思い出としてではなく、オプス・デイの歩みと聖ホセマリアの生涯に、神のみ手を観る喜びに生きているのです。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2013年4月1日

[i] ベネディクト十六世、2005年4月 24日就任ミサ説教。

[ii] 教皇フランシスコ、2013年3月19 日就任ミサ説教。

<u>[iii]</u> ローマ・ミサ典書ニケア・コン スタンチノープル信条。 [iv] ローマ・ミサ典書、復活の第一叙唱。

<u>[v]</u> 『カトリック教会のカテキズム』639番。

[vi] 1コリント15,3-5.

[vii] 『カトリック教会のカテキズム』646番。

<u>[viii]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 102番。

[ix] 黙示録 1,13-16。

[x] 1ヨハネ3,18。

<u>[xi]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』111 番。

[xii] 聖ホセマリア、1941年12月8日 『指導指針』57番。 [xiii] 聖ホセマリア、1950年9月14日/1935年5月『指導指針』注146番。

<u>[xiv]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 111番。

[xv] ヨハネ13,34-35参照。

[xvi] ヨハネ20,20。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shu-ren-qu-chang-noshu-jian-2013nian-4yue/(2025/12/13)